



2020年2月13日

日本鉄道労働組合連合会

JR九州労組第32回定期中央委員会 組織の総力で課題に取り組み

組合員の負託に応えよう！

JR九州労組は2月6日、TKPガーデンシティ博多において第32回定期中央委員会を開催した。中央委員や特別中央委員など総勢約80名が参集し、安全の確立、2020春季生活闘争の取り組み、政策課題の解決、JR連合への総結集にむけた組織強化・拡大などを柱とした当面の活動方針を、真摯な討議を経て満場一致で決定した。



冒頭、中原博徳中央執行委員長（JR連合副会長）は挨拶で、「様々な課題を克服していくためには労働組合があってこそ、そこに集団的労使関係が生まれ、働く者の意見や要望が労使協議を通じて形となり、働く者の権利や生活が守られ、働き甲斐と希望を持てる環境を創り出すことができる。改めて労働組合＝集団的労使関係の必要性を粘り強く訴えていく」と決意を語った。

そして、来賓として出席したJR連合の今井企画部長からは、JR連合第32回中央委員会で決定した活動方針や「JR連合ビジョン」について説明があった。

質疑・応答では、21名の委員と特別委員から、2020春季生活闘争にむけた意気込みや会社の効率化施策に対する危機感、組織拡大にむけた思いなどの発言があり、執行部からの中間答弁を踏まえ、芦原秀己書記長が集約答弁を行い、満場一致で承認された。その後、委員会宣言を出席者全員で採択し、最後に中原委員長の団結ガンバローで閉会した。